

協議会の活動

活動紹介

令和5年度12月26日（火）に「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム～未来につなぐ 東北のものがたり～ を開催しました。



「新しい東北」官民連携推進協議会は、今年度も宮城県を拠点とする協議会の副代表団体等による意見交換会を実施しています。

意見交換会では昨年度より、2025年の大阪・関西万博等により、国内外から東北に訪れる方が生じる機会をとおして、宮城県の防災に関する学びの情報発信等につながるよう、宮城県沿岸エリアとしたエクスカーションプログラム（会議後の視察プログラム）の造成等を取り組んできました。

特に、令和5年度の取組としては、プログラムの実現と自走化を目指してプログラムクラッシュアップに取り組み、2本のプログラム、訪日外国人向けモニタリングツアー1本を試行しています。

こうしたエクスカーションプログラムの実現報告を行なうとともに、県内で観光振興に携わる関係者やソーシャル分野の有識者によるパネルディスカッションや、県内唯一の観光学科をもつ東松島高等学校で実施して実施した取組の紹介を通じて、観光・国際会議関係者等と「面」としての観光コンテンツの磨き上げるに関するヴィジョンを共有する目的として、2023年12月26日（火）13:30～16:00に「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム～未来につなぐ 東北のものがたり～（主催：「新しい東北」官民連携推進協議会（宮城県・東北大学、七十七銀行、みやぎ連携復興センター及び復興庁））と題したフォーラムを開催しました。

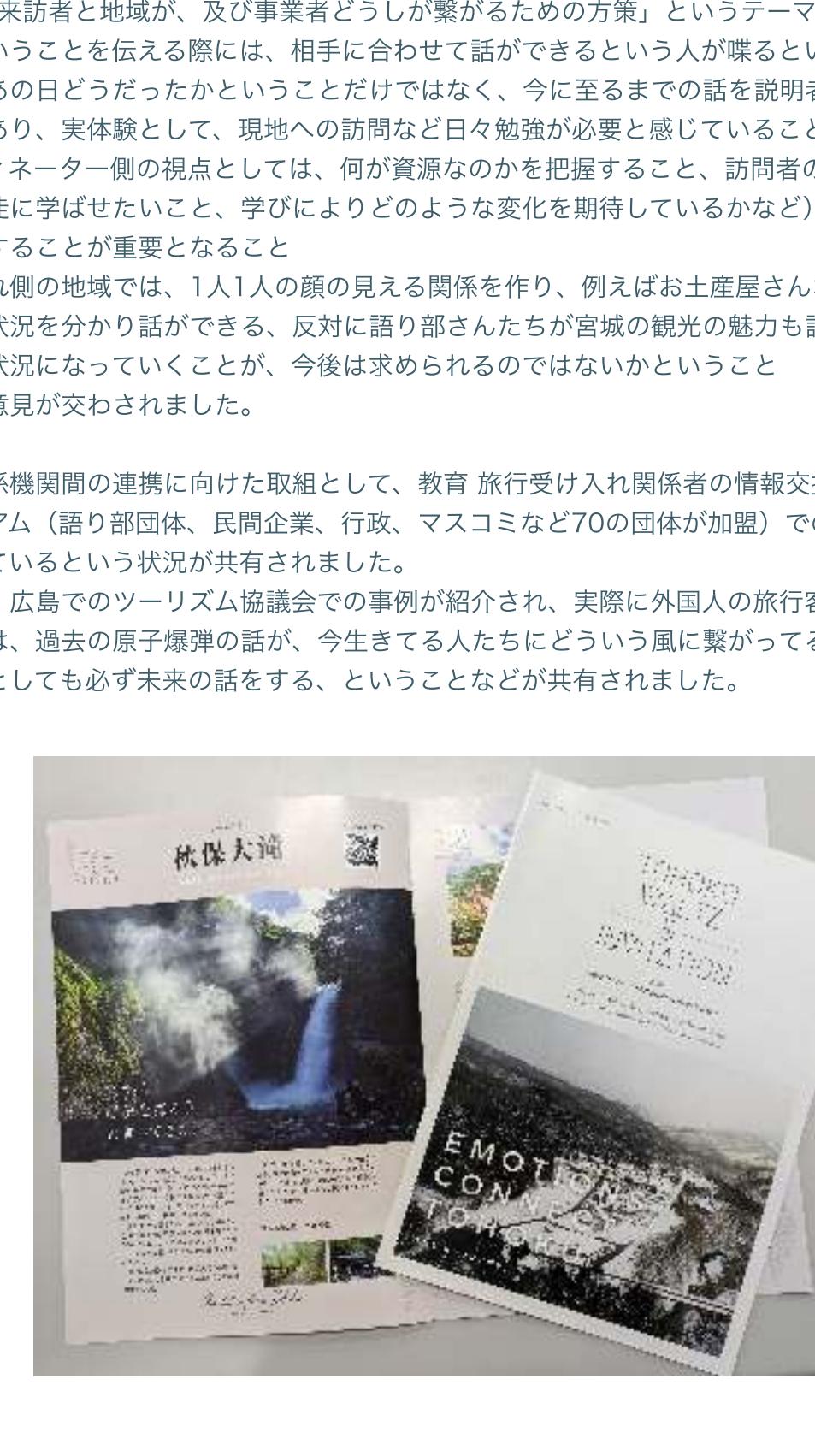
フォーラム当日は60名近くの観光・国際会議関係者等に集まりいただきました。本稿では、このフォーラムの模様をレポートします。



(当日のプログラム内容)

- 1. 開会（開会挨拶／開催趣旨説明）
- 2. 基調講演～宮城県における観光・震災復興の現状～
登壇者：宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課長 橋口 保 氏
- 3. 事業紹介～宮城県内エクスカーションプログラムについて～
登壇者：株式会社たびむすび 代表取締役 稲葉 雅子 氏
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
- 4. パネルディスカッション～みやぎから届け！未来のツーリズムを支えるものがたりの作りかた～
ファシリテーター：JTB総合研究所 客員研究員 後藤 直哉 氏
パネリスト：JTB総合研究所所長 兼（一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会理事 山下 真輝 氏
宮城県観光連盟事務局次長／みやぎ教育旅行等コーディネート支援センターセシナー長 三浦 均 氏
株式会社たびむすび 代表取締役 高谷 尚嗣 氏
株式会社たびむすび 代表取締役 稲葉 雅子 氏
宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課長 橋口 保 氏
- 事例紹介：宮城県松島高等学校観光科との連携による取組
ゲスト：宮城県松島高等学校観光科有志の皆様
- 5. 閉会（閉会挨拶）

■ 1. 開会～2. 基調講演



復興庁・後藤参事官より開会のご挨拶をいたいたい後、宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課長橋口氏より、「宮城県における観光・震災復興の現状」に関する基調講演をいただきました。

県内の観光の状況として、震災後、ボランティアツーリズムや買い物などで被災地に訪れていただくなど、観光復興の取組が進められた結果、平成29年に震災前の水準を上回り、令和元年には過去最高値を更新していましたこと、一方で、「観光客は風に左右される」と言葉がある中で、特に東北においては、「風化」と「風評」という風と戦っていかないといけないテーマであることを述べました。

そのような中で、県内の観光資源を活かして宮城・東北に来ていただき、さらに被災地や伝承施設・震災以降に訪れていただくような取組を進めることが重要であることを述べました。

また、関係機関の連携による取組として、JTB総合研究所・山下氏より「ものがたりをつなぐストーリーテリング」の必要性について、経験価値の高い観光について、事例も交えながら話されました。

今回のフォーラムの中では、行程全体を通して説明いただきガイドをスルーガイドとお呼びしています。

スルーガイドには、各スポットに関する知識だけでなく、各スポットを繋ぎ、「面」として見せるためのストーリーテリングが求められます。

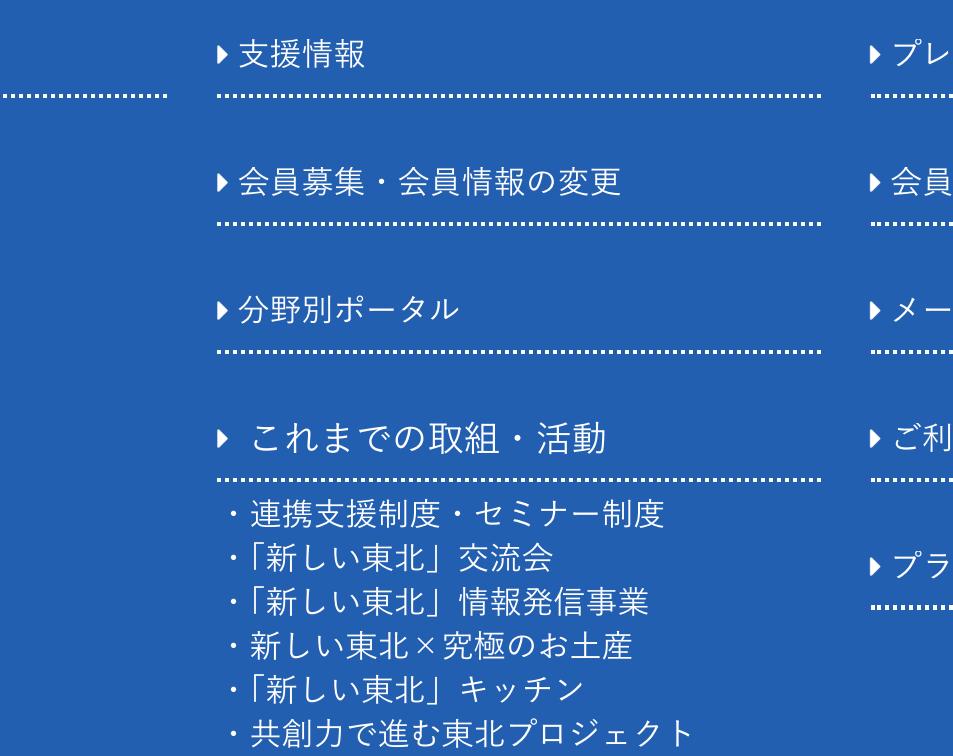
こうした中、ガイドとして意識した点としては、①訪れる方の属性を事前に把握しておくこと、

②把握した訪れる方の知識に合わせて、東北地方や被災地、震災についての知識を資料も活用しつつ事前にインプットすること、

③次に訪問する場所での体験ストーリーを捕らえる説明を行うこと、などが挙げられます。

また、ストーリー性をもったツアーを企画するためには、ツアーの企画する方が最初のものがたりととして、どのようなストーリーを伝えたいのか、企画段階で考え、関係者間で共有していくことが重要という示唆をいただきました。

■ 3. 事業紹介～宮城県内エクスカーションプログラムについて～



パネルディスカッションでは、「～みやぎから届け！未来のツーリズムを支えるものがたりの作りかた～」と題して、宮城県における観光・震災復興の現状について、JTB総合研究所の山下氏より「ものがたりをつなぐストーリーテリング」の必要性について、経験価値の高い観光について、事例も交えながら話されました。

これは、施設等の客観的な紹介ではなく、震災からの復興の物語を含む自身の体験を主観的に伝えることで、共感を訴え、来訪者の興味を引き付ける、反対に被災された方の震災の魅力を話せるようになっておくという状況になっていたことが、今後は求められるのではないかということを述べました。

また、関係機関の連携による取組として、JTB総合研究所・山下氏より「ものがたりをつなぐストーリーテリング」の必要性について、経験価値の高い観光について、事例も交えながら話されました。

震災後、ボランティアツーリズムや買い物などで被災地に訪れていただくなど、観光復興の取組が進められた結果、平成29年に震災前の水準を上回り、令和元年には過去最高値を更新していましたこと、

一方で、「観光客は風に左右される」と言葉がある中で、特に東北においては、「風化」と「風評」という風と戦っていかないといけないテーマであることを述べました。

そのような中で、県内の観光資源を活かして宮城・東北に来ていただき、さらに被災地や伝承施設・震災以降に訪れていただくような取組を進めることが重要であることを述べました。

また、関係機関の連携による取組として、JTB総合研究所・山下氏より「ものがたりをつなぐストーリーテリング」の必要性について、経験価値の高い観光について、事例も交えながら話されました。

震災後、ボランティアツーリズムや買い物などで被災地に訪れていただくなど、観光復興の取組が進められた結果、平成29年に震災前の水準を上回り、令和元年には過去最高値を更新していましたこと、

一方で、「観光客は風に左右される」と言葉がある中で、特に東北においては、「風化」と「風評」という風と戦っていかないといけないテーマであることを述べました。

そのような中で、県内の観光資源を活かして宮城・東北に来ていただき、さらに被災地や伝承施設・震災以降に訪れていただくような取組を進めることが重要であることを述べました。

また、関係機関の連携による取組として、JTB総合研究所・山下氏より「ものがたりをつなぐストーリーテリング」の必要性について、経験価値の高い観光について、事例も交えながら話されました。

震災後、ボランティアツーリズムや買い物などで被災地に訪れていただくなど、観光復興の取組が進められた結果、平成29年に震災前の水準を上回り、令和元年には過去最高値を更新していましたこと、

一方で、「観光客は風に左右される」と言葉がある中で、特に東北においては、「風化」と「風評」という風と戦っていかないといけないテーマであることを述べました。

そのような中で、県内の観光資源を活かして宮城・東北に来ていただき、さらに被災地や伝承施設・震災以降に訪れていただくような取組を進めることが重要であることを述べました。

また、関係機関の連携による取組として、JTB総合研究所・山下氏より「ものがたりをつなぐストーリーテリング」の必要性について、経験価値の高い観光について、事例も交えながら話されました。

震災後、ボランティアツーリズムや買い物などで被災地に訪れていただくなど、観光復興の取組が進められた結果、平成29年に震災前の水準を上回り、令和元年には過去最高値を更新していましたこと、

一方で、「観光客は風に左右される」と言葉がある中で、特に東北においては、「風化」と「風評」という風と戦っていかないといけないテーマであることを述べました。

そのような中で、県内の観光資源を活かして宮城・東北に来ていただき、さらに被災地や伝承施設・震災以降に訪れていただくような取組を進め paramString することが重要であることを述べました。

また、関係機関の連携による取組として、JTB総合研究所・山下氏より「ものがたりをつなぐストーリーテリング」の必要性について、経験価値の高い観光について、事例も交えながら話されました。

震災後、ボランティアツ